

# 地域の元気

と競合して値段が付かないとかの事情で出荷できない野菜が出た時

で離れて以来。改め

者があつと農地を守つ

て良い所だと思い、い

ていてくれたことが分

産地の恵まれた自然

になります。

リニア中央新幹線東

京—名古屋間のルート

になっています。

都市

に住民には恩恵があるか

もしだせんが、リニ

アが静かな山村に建設

されようとしているこ

とも知つてほしいと思

います。

## 規格外野菜を都会に

収穫しようにも人手がない、規格外で市場に出せないから畑の肥やしになる。そんなもつたない野菜」を南アルプスの入り口、大鹿村から都会の消費者に届ける企画「いつでも送つていいよ大作戦」。地元の旅館業の家に生まれた前島久美さん(32)がリターン後

に始め、今年で6年目。農地を守る高齢者が生き生きと暮らし、都市住民に山村の今を知つてほしいと、毎年、収穫体験イベントも企画。日々、愛用の地下足袋で、お年寄りらの手助けに駆け回る。

【横井信洋】

——企画名の「いつでも」という意味は。

消費者に生産者側の都合に合わせてもらおうということです。曲がっているとか、よそ

東京で会社勤めなど

をした後、2007年

——きつかけは。

い農産物に目を向けてもらいたいという思いもありました。

前島久美さん

5代目になる養蚕農家の紙谷正さん。「今日も久美さんが収穫に来た」と話し、「送つていいよ」の取組みに感謝する=大鹿村

に買って、大鹿の農家を応援してくださいと

いう趣旨です。「もつ

たない野菜」がいつ

出るかは分からぬ。

だから「いつでも」。

田舎の畑に放置される

野菜は、都会の人が求

める「安全安心の農産

物」である。食料自

給率の低さが言われま

すが、市場に出回らな

い農産物に目を向けて

もらいたいという想い

もありました。

前島久美さん

6回程度、季節の野菜

を届けます。冬場には

凍み大根など加工品も

入れています。1万円

は生産や収穫、発送の

コスト。私が主に80代

の農家さんの畑に出向

いて相談しながら収穫

しています。

前島さんは9月に入

って、ほぼ1日おきに

紙谷さんらの畑を巡

って、ほぼ1日おきに

農地を借りて米や野菜

を作り、一部は企画の

商品に加えている。農

業の未経験者がどこま

でできるかの「実験

であり、「挑戦」だ。

前島さんは手際のよい前島

購入者は40人

購入者は約40人で、2軒も利用する。前島谷正さん(88)もその1人で、田畠も持っています。ヨガのインストラクターや家業の手伝いがてら休耕田や遊休農地を借りて米や野菜を作り、一部は企画の商品に加えている。農

業の未経験者がどこま

でできるかの「実験

であり、「挑戦」だ。

# いつでも送つていいよ大作戦



前島久美さん

